

男女共同 △, ダイバーシティ, コロナ禍



長谷川 修司

本会は、旧表面科学会のと時から（一社）男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として参加して情報収集等を進めて参りましたが、旧真空学会との合併を機にダイバーシティ推進委員会を新設し、2018年11月の学術講演会のなかでダイバーシティ・キックオフシンポジウムを開催して本格的な活動を開始しました（表面と真空 62, 170 (2019) 参照）。本年度には、表面・真空科学関連分野で活躍している女性研究者を顕彰する賞を制定し、第1回の授賞を行いました。本特集号では、その受賞者および、本会に関連する分野での本年度文部科学大臣賞や（一社）日本女性科学者の会での賞を受賞された女性研究者が、それぞれの研究業績を紹介しています。ご受賞のお祝いを申し上げるとともに、若い女子学生たちを惹きつけるロールモデルとしてますますのご活躍を期待いたします。

育児・介護休業法、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、女性活躍推進法など多数の法律が制定・改正され、この30年間に様々な施策がなされてきました。それにも関わらず、諸外国に比べると、さまざまなセクターでの女性活躍が日本ではまだまだ不十分だとの指標をよく目にします。

一方で、△印のついた男女共同参画の考え方から脱皮し、もっと広い視点に立つダイバーシティの考え方が広まっています。つまり、性別だけでなく、年齢、職業、国籍、経歴、教育、居住地、障害、ワークスタイル等さまざまな面で多様な人たちの共同こそ重要だという考え方です。違った観点からものを語れる人たちが共同すれば、健全で強靱で、しなやかな組織や社会を作れるといえます。

本会のような学会は、多様なバックグラウンドをもった老若男女が集まって交流し、何か新しいものを生み出す格好の場となっています。表面・真空科学という学際的な分野を網羅し、産官学からの会員が入り混じり、国際的な場にも活動のウイングを広げています。国際、学際、職際、地域際、人際…多様な視点をもつ専門家の集まりである本会は、十分なダイバーシティを内在していると言えます。

一方、ここ一年程、全世界をどん底につき落とした新型コロナウイルス感染症の拡大は、図らずもデジタルトランスフォーメーションDXを加速させました。本会でも学術講演会をはじめ、理事会や各種委員会がオンライン会議となり、セミナーや講座、資格認証試験までリモートで実施され、参加者が多様化しました。遠隔地居住者、育児や介護、障害などのために外出が難しい方々などもハンディを感じることなく活躍できる機会が増えつつあります。DXはダイバーシティをさらに加速し、令和の時代を異次元の世の中にするでしょう。この絶好のチャンスに本会のダイバーシティを格段に上げたいものです。

(東京大学)